

江戸川散策見聞録

みんなで歩いて再発見



2010.
09.30 (木)

12.17 (金)

入場無料

散歩コースでたどる「たどえぼ」こんな江戸川区

あなたの散歩コースをパソコンで「科学」してみよう

大園園のオリジナル絵巻で散歩コースを紹介します！

これは大きい！(足つばロード)あらわる！

<特別イベント>

江戸川区を 一緒に歩いて 再発見ツアー

10 / 31 (日)
午後2時～

無料

WALKING LESSON

講師：西宮佑季

11 / 13 (土)

1回目：午後1時～

2回目：午後3時～

会場：しのさき文化プラザ3F講義室

無料

いずれも事前申込みが必要です

魅力満載の江戸川区を散策しませんか

見慣れた風景の中、
ゆっくり歩いて、よく見渡すと、
こんな景色、こんな場所、
こんなお店、こんなモノ——
いろいろな発見に出会うことが
できるかもしれません！

「タワーホール船堀」塔上から南方向を撮影



「立山連峰」の背景画。1年～2年ごとに描き換えます

大正時代に創業した老舗の銭湯、吉野湯は富山市が主催する「銭湯の背景画を立山連峰に！」というキャンペーンに江戸川区では唯一参加しています。その「立山連峰」の背景画が出来上がり、先日富山市の森市長が吉野湯を表敬訪問されました。「東京のお風呂屋さんには石川、富山、新潟の出身の方が多いいです。私たちも石川県出身です。このキャンペーンのニュースが広がって、それをきっかけに、この絵を見に来てくれるお客さんが増えるとうれしいですね。立山にも是非行っていただきたいです。」と吉野湯のご主人。

吉野湯

よしのゆ

お風呂屋さんで背景画は富士山だけではありません。散策の汗を流すにはもってこいのスポットです。



今も昔も風呂上がりにはこれですね



富山の製薬会社から贈られた湯桶



女湯の庭（上）と男湯の庭（下）



吉野湯／岡部芳美さん（右）・長治さん



銭湯の煙突も随分少なくなっています

吉野湯

住所 平井4丁目23番2
営業時間 午後3時から午前0時
月曜休

吉野湯ではタオル、シャンプー、リンスのセットを販売していますので、手ぶらでも入浴可能です。

家族散歩。

なぎさ公園の小高い丘は展望ポイント。なぎさ公園とフラワーガーデンを行き来するパノラマシャトル。美しい噴水や秋バラが香るフラワーガーデン。ひだまり公園には遊具の広場、芝生の広場、水辺の空間があります。管理の行き届いた公園はご家族みんなで楽しみ、お財布にも優しいスポットです。

なぎさ公園



展望の丘は海拔13.5m。



夕暮れにはきれいな夜景が見渡せる。展望の丘。



家族連れに人気のパノラマシャトル



ビジネスマンも密着される憩いの場所

なぎさ公園とフラワーガーデンの間を2種類のシャトルが往復しています。機関車タイプの「元氣くん」、ヒーローものの特撮映画に出てくる様なカラーリングの「未来くん」。ゆったりと自然を満喫しながら1.7kmのコースを約20分で移動します。

フラワーガーデン



噴水とバラの鮮やかなコントラスト。



日陰のベンチで小休止。



季節の花を鑑賞しながら走るパノラマシャトル



フラワーガーデンには110種、2,500株のバラがあります。

10月の声を聞くと、区内の公園はいろいろな花が見頃を迎えます。ここフラワーガーデンでは、秋バラが赤や黄色の花を咲かせます。溢れる甘い香りをお楽しみ下さい。夏には、水遊びの子供で溢れていた噴水も、秋には静かなバラの景色を引き立たせます。



噴水での水遊びもOK。きれいに整備されていますので、安心です。

ひだまり公園



園内には健康遊具も充実。



ストレッチや軽いトレーニングでリフレッシュすることができます。



やわらかな日陰を作る「みどりのアーチ」。

ひだまり公園の園内には、大人も使える健康遊具が充実しています。シンプルな構造の遊具で、使用方法が書かれた案内表示板も設置されているため、散歩やジョギングの途中などに気軽にストレッチ運動をすることができます。普段パソコン主役のデスクワークが多い方や、運動の機会が少ない方のリフレッシュにおすすめです。

また、植物によって日陰を生み、涼しい風の通り道を作る「みどりのアーチ」や園内で使用する照明などの電力を節電する風力発電など、自然エネルギーを活用した地球にやさしい環境作りにも取り組んでいます。



園内の照明に利用される風力発電も行っています。

地場のもの、という贅沢。

「自動販売機の発想は、直先で始めた7年前に生まれました」

—江戸で農業を営む岩橋英樹さんのお話です。

「お客さんに新鮮な野菜を食べてもらいたい。でも農作業と販売を兼行して行なうには人手が足りません。そこで自販機を思い立ったのです」

朝11時に採りたての野菜が自販機に入れられ、その後は売れ行合に応じて補充されていきます。江戸川区の名産である小松菜をメインに、品揃えは年間で見つに25種類におよびます。10月から年末にかけては、小松菜やほうれん草、ブロッコリー、セタスなど、7〜8種類が品揃えされる予定です。「毎日売り切れることを心掛けている」と岩橋さんが語るように、自販機の野菜たちはつねに新鮮です。

野菜の自販機「こまつくん」／岩橋英樹さん



収穫の喜びを子どもたちにも。

「近年は、江戸川区内の幼稚園や保育園に通う児童のために、ジャガイモ掘りやサツマイモ掘りを体験してもらっています。美味しいと喜んでもらえるなら、収穫の喜びも味わってほしい。野菜嫌いな子どもでも、自分で採ればきっと食べるようになりますよね」

農業を通じてたくさんのひとの喜ぶ笑顔を見たい、と岩橋さんはそんなふうに思っています。

野菜の自販機
こまつくん

住所 一之江7丁目40番
営業時間 午前11時から商品売り切れまで
(午後7時頃) 日曜休

ロワール奈良屋

むらなまさき
ロワール奈良屋／ 中村様儀さん

創業は昭和八年にさかのぼります。奈良から上京した先代のお父様が、修行を経て開業しました。現在の店主である二代目の中村様儀さんが、十代の頃より父や店の職人たちから菓子づくりのいろはを学び、店を受け継いだのは25歳のときです。以来、半世紀にわたり洋菓子をつくり続けています。

「何度も失敗を繰り返しましたよ。好みの味はお客さんが決めること。すこしでもお客さんに喜んでもらえるように研究するのは、職人として当然のことです」看板メニューのワッフルは先代から受け継がれています。オリジナリティの秘密は素材の配合とのことです。

玉子と砂糖の割合が多く、栄養価が高いのです。ボリュームもあり、近年は米粉も用いられています。伝統を大事にしつつ、時代の志向に合わせて中村さんは少しずつ手を加えてきているのです。「お客さんに還元したいのです。私はこの街で生まれて、ご近所の方々がお店を可愛がってくださるから暮らしていける。だから、恩返しのためで焼いています」ロワール奈良屋のワッフルが包んでいるのは、なによりも中村さんの気持ちなのです。



看板メニューのワッフル

ロワール奈良屋

住 所 東小岩5丁目20番8
営業時間 午前9時から午後7時 水曜休

半世紀にわたる老舗の味に、思わず唸る。

洋菓子とせんべい。好みが変われるところではありませんが、長い間愛され続けるのは、並大抵のことではありません。いずれも老舗のこだわりがファンを魅了してやみません。

高崎せんべい

たかさかずお
高崎せんべい／ 高崎和男さん

平井の目黄不動最勝寺（めきふどう さいしょうじ）の門前に高崎せんべいがあります。この場所で53年間お店を営む高崎さんは、昔ながらの製法でせんべいを焼き続けています。それは、餅米をつき、固めて、干し、最後の工程で、炭火で焼く、という仕上げ方です。半世紀余りの歴史がぎっしりと詰まった仕事場。そこにはその日に焼いたせんべいが茶箱に入られています。湿気を防ぐための工夫です。そのせんべいを1枚いただきました。まだあたたかく、一口食べると本当に懐かしい味がしました。最勝寺にお墓参りの帰りに立ち寄ったご夫婦は「お盆、お彼岸のたびに40年以上ここのおせんべいを食べています」と、いつまでも変わらない老舗の味を楽しんでいました。



高崎せんべい

住 所 平井1丁目26番5
営業時間 午前7時から午後6時30分
不定休

運送の費用は運送



招き猫に 誘われて



散歩のおみやげに

ご主人自慢の招き猫
は特産品



味わいのある13種類のせんべい



焼く前の八角形のせんべい。この形は岩戸
製に由来します



甘いお菓子も品揃え

岩戸せんべい 高松中養堂

たかまつちゅうどう

年季の入った焼き網がずしりと重く感じます。職人の手によって丹念に編まれたこの道具を使い、高松和良さんはおよそ50年のあいだ、小岩でせんべいを焼き続けています。「何十年やっても難しいよ」と、柔和に笑みかけられます。5日かけて生地が乾燥され、冷ましながらかれていきます。秘伝のタレがつけられ、ふたたび乾燥、そして袋詰めとなります。胡麻や味噌など13種類を数えるせんべいは、これらの工程によって肉厚になり、それでいて食感はやさしいのです。ただ焼き上がりは気候に影響されるため、高松さんが頼るのは長年培った「勘」です。それでも、昭和7年に先代のお父様が創業して以来、手焼きにこだわってお店を営んでくれました。「駅から歩いてわざわざ買いに来てくださるお客さんのことを思うにつけ、ここでしか味わえないせんべいを焼きたいと思うのです。だからけっして機械は使いません」ちなみに、「岩戸せんべい」の名は古事記に由来しています。天照大神を映し、世界に光を取り戻すきっかけとなった「岩戸隠」（八咫鏡）です。それゆえ、かたちも円形ではなく、八角形を描いています。そこには、「先が開けるように」という先代の思いが反映されています。



岩戸せんべい高松中養堂
たかまつちゅうどう
高松和良さん

岩戸せんべい
高松中養堂

住 所 東小岩5丁目2番9号
営業時間 午前9時から午後8時（不定休）

一之江境川親水公園



「自然に近い水辺」をテーマに、野の川を自然に整備されました。季節の移り変わりを楽しみ、豊かな自然を満喫できます。

小松川境川親水公園

江戸川区内で2番目の親水公園です。小松川境川はかつて農業用水や舟運の幹路として重要な役割を果たしてきました。桜の名所でもあります。



新長島川親水公園



区内で3番目の親水公園です。水の階段や円形の噴水広場があります。四季折々の花や樹木が楽しめます。水仙の名所でもあります。

古川親水公園

国内で最初の親水公園です。「親水」という新しい概念で湧水をよみがえらせたことは、世界各国で大きな反響を呼んだ画期的なことでした。



新左近川親水公園

区内で4番目の親水公園です。広い水面を持ち、新長島川親水公園の南側に隣接しています。



親水緑道



水と緑のネットワーク

水と緑。人と川とが親しく身近にふれ合うことのできる空間。時にはその風景に心を癒し、また時には行動的に自然を体験する。楽しみ方によって散策もまたいろいろです。

江戸川区の親水公園、親水緑道

すぐ近くを通る環状線は喧騒に包まれているというのに、ひとつ道を折れると豊かな水と緑が静寂へと息づいてくれます。木陰に入れば強い日射しも届きません。耳を澄ますと、せせらぎとともに子どもたちのしゃべり声が聞こえてきます。一之江駅と葛西駅のあいだに位置する古川親水公園の、ある夏の日の風景です。三方を川や海に囲まれる江戸川区の自然とのゆかりは深く、420kmに及ぶ水路と中小河川はかつて、農業用水や水上交通路として利用されていました。しかし都市化が進むにつれ、そこには生活排水が流されるようになり、下水道の普及とともに水路の役目は終わりました。「親水計画」が立てられた

のは、昭和47年のことです。人々が魚釣りや水遊びに興じたかつての清流を取り戻すべく整備を進め、昭和49年、古川親水公園が完成しました。この日本初の親水公園をはじめ、現在は5つの親水公園と18の親水緑道を数えます。古川親水公園の小さな滝で水遊びをしていた子どもたちは、「冷たくて気持ちいい」と笑顔を見せてくれました。時に金魚を捕まえ、また時には新川や板川など他の親水公園に足を伸ばすこともあるそうです。

自然に抱かれて
旧家に伝わる伝統を知る。

一之江抹香亭

いちのえまきこうてい

四季折々の風情が愉しめる 旧家の庭園を歩く。



旧家の入り口にある石の鳥居



数百年の老木が目を引く。タノキの葉が風に揺れる姿が印象的だ。



石の鳥居をくぐると



緑の多い庭園の中、みかんが実る木々が見える。秋の訪れを感じる。

吹き抜けるやわらかい風が心地よい。母屋の庭園、そこに咲く美しい花々を眺めれば、思わず時の流れを忘れてしまいます。



土蔵から見える庭園の一角



石の鳥居

一之江川親水公園に面した門の右手には、樹齢750年を超える巨木がどっしりと横たわっています。抹香づくりに使用された、と云われているタブノキです。ふと左手に目を移すと、さらに歴史の古い、かつて表門にあったタブノキが大切に残されています。「一之江抹香亭」は、旧家一之江村の旧家として山崎ある抹香屋田原家の邸宅を、今年4月に開館しました。建物の戸を入った右手には、茶室や押切、乳鉢など、抹香づくりに用いられる道具を観ることができます。時の流れを思わせる常春樹は、田原家に残されていたものです。正面の壁にかかる油絵には、かのタブノキが庭園にあり以前の風景が描かれています。



表門をくぐる前のタブノキを、タブノキの葉が風に揺れる姿が印象的だ。



表門をくぐる前のタブノキを、タブノキの葉が風に揺れる姿が印象的だ。



旧家の壁に飾られた時計



石の鳥居をくぐると

開館してまだ半年ながら、抹香亭ではこれまでにさまざまなイベントが開催されてきました。奇数月の第4日曜日に行なわれている「香づくりに体験教室」は、受付開始後もなく定員が埋まるほどの人気です。四季折々の庭園も堪能して、11月には「菊花展」が予定されています。また「緑の香り展示」として、母屋の裏手にも地域の人が日々大切に育てた草花が並んでいます。

四季に応じて変わる香のにおいと庭園から見える木々の影が、季節のうつろいを教えてくれます。つぎに訪れるときは、どんな風景が広がっているのでしょうか。

抹香づくりの過程と 使用される道具



タブノキの葉が風に揺れる姿が印象的だ。



石の鳥居をくぐると



石の鳥居をくぐると



石の鳥居をくぐると



石の鳥居をくぐると



石の鳥居をくぐると